

B-55 最近のおむつかぶれの実態

明和女子短大 ○大川章 北條泰江

目的 最近のおむつかぶれは従来と様相を異にし、アンモニア生成菌に起因するものは少なく、カンジダ感染によるものが異常に増加している。そこでその原因を探るために検討を加えたのでその結果を報告する。

方法 臨床的所見および菌学的証明により確実に診断された症例について、皮膚科学的に検討を加え、さらにカンジダ菌増殖の原因を知るために真菌学的、細菌学的に殺菌剤および衣服用界面活性剤のこれらの菌に対する態度を調べた。

結果 最近のおむつ部皮膚炎の大部分はカンジダ菌による乳児寄生菌性紅斑であった。さらに従来と異なる点はこれらの皮疹が他の部位にまで拡大し、汎発化する傾向を示し、従来のおむつかぶれの治療では悪化する点である。その激増の原因は乳幼児の皮膚、おむつおよびおむつカバーの殺菌または静菌的に働らく殺菌剤、洗剤および衣料用界面活性剤の濫用、おむつおよびおむつカバー内の局所気候条件、ステロイド剤および抗生物質の乱用が主な原因であろう。これらの予防のためには育児法、おむつ用品の再検討が必要である。